



浜之郷小学校

12月号③

2021. 12. 20

# 郷小だより

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

『今週が終わると冬休みがやってきます』

校長 高橋 励

先週の15日朝。登校してくる子どもたちが、手に霜が降りた葉っぱや霜柱をもって「とけるまえに間にあった!」とか「まっしろだった!」などと報告してくれました。「しも」という言葉を知っている子と知らない子で語り方はさまざまでしたが、冬の寒さのステキなところにふれて、心を動かされたようでした。

カレンダーに追いつくように、寒さが厳しくなってきました。そのためなのか、元気に走ってくる子が増えている気がします(特に低学年)。転ぶ心配もありますが、手袋をしているお子さんが増え、ポケットに手を入れているお子さんの数が減りました。(ご家庭でのサポートに感謝です。) そんな寒い朝にも半そでのTシャツで登校するつわものが出て、日々感心(?)しながら見守りをしています。

～ ご協力ありがとうございます ～

Google アカウントのパスワード変更

急なお願いでお手間をとらせましたが、Google アカウントのログインパスワードの変更へのご協力ありがとうございました。お届けいただいたパスワードの再設定作業を進めていますが、なかに、条件を満たしていないことからパスワードとして使えないものがあるようです。また、区別が付きにくい似た形の表記(例えば「O」と「o」と「0」など)が判別できないものにフリガナなどがなく、あらためて確認させていただく必要があるものもあるようです。学級担任から確認のご連絡があると思いますが、よろしくお願いたします。

～ 全国学力・学習状況調査から ～

裏面に、今年度の全国学力・学習状況調査の結果分析を掲載しています。6年生を対象に5月に実施されたもので、昨年度の浜之郷小学校の取り組みを把握するためのものです。今回は、コロナ対応で追われた昨年度を振り返りながら、校長の目で結果を読み解いてみましたのでお読みください。

なお、毎年行われているこの調査、全国規模で国語と算数の学習状況、そして学校の取組のようすを客観的に把握するものですが、あくまでも、対象となるその年度の6年生が5年生までで身に付けた力や実施前年度の学校の教育活動の一部・一面を切り取ったもので、結果がそのままその学校の全てというわけではありません。しかし、それでも結果から見えてくる成果や課題もあると思っています。

国立教育政策研究所ホームページの「令和3年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料【全国版/小学校】」から、全国の結果と傾向を知ることができます。興味がある方はそちらをご参照ください。↓

(<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/factsheet/primary.html>)

今後も、浜之郷小学校の取り組みを丁寧に振り返りながら、「安心して学びに向かえる学校」をめざしてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

# 令和3年度全国学力・学習状況調査分析

## 1 概要

・学校質問紙及び児童質問紙の結果にあらわれた傾向については、全国・県どちらを基準として比較しても、質問紙の回答項目の分布は概ね同じような傾向がみられます。

## 2 学校質問紙のチャート分析から

教科学力 … 「国語」、「算数」  
教科指導 … 「国語科の指導方法」、「算数科の指導方法」  
授業改善・生徒指導 … 「授業改善」、「児童指導」  
学校経営 … 「学校運営」、「教職員の資質能力の向上」、  
「家庭や地域との連携等」

・「学校経営」については、「学校運営」への取り組みは、全国・県との比較では高い傾向がみられます。しかし、「教職員の資質能力の向上」と「家庭や地域との連携等」には低さが見られ、特に「家庭や地域との連携等」についてはそれが顕著に表れています。また、平成31年度調査にあらわれた本校の状況と比較してみると、「授業改善」と「算数科の指導方法」への取り組みに高まりが見て取れますが、一方、「教職員の資質能力の向上」は大幅に下がり、また「家庭や地域との連携等」も下がっています。

・「授業改善・生徒指導」については、「授業改善」に向けた取り組み状況は少し高めですが「生徒指導」には低さが見られます。

・「教科指導」については、「算数の指導方法」は概ね基準と重なりますが、「国語の指導方法」については、低さがみられます。

＊コロナ感染防止の対応(三密の回避等)により、本来積み上げてきた授業づくりや学級づくり、本来取り組んでいた校内研究や地域・家庭との連携を止めざるをえなかったことが一要因としてあると考えます。

## 3 児童質問紙のチャート分析から

教科学力 … 「国語」、「算数」  
学習に対する興味・関心 … 「国語への関心等」、  
「算数科への関心等」  
規範意識・自己有用感 … 「規範意識」、「自己有用感」  
生活習慣・学習習慣 … 「生活習慣・学習習慣」

・全国・県それぞれを基準とした場合、「自己有用感」については基準より高い傾向がみられて、「規範意識」も基準と同様でした。  
・「生活習慣・学習習慣」についてはやや低め、「教科学力」、「学習に対する興味・関心」もともに低めで、特に「国語」及び「国語への関心等」については低くなっています。

＊コロナ感染状況の変化に伴い、子どもが「支えあい・聴きあい・学びあう」ための環境づくりに取り組むことにより、改善をめざしています。

## 4. 児童質問紙の回答より(傾向が顕著に出ているもの)

全国・県との比較で、肯定的な回答の割合が顕著に(10%程度)上回るものに○、下回るものを△で表しています。(数字は質問番号)

- 将来の夢や目標を持っていますか。(7)
- 5年生までに受けた授業で、学校の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えてきましたか。(31)
- 5年生までの受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。(32)
- △普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。(5)
- △家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)。(17)
- △総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(39)
- △国語の勉強は好きですか。(43)
- △算数の授業の内容はよく分かりますか。(54)
- △解答時間は十分でしたか(国語)(68)

## 5. 国語 ～問題別調査結果より～

- ・全体として、後半の設問ほど無解答率が高くなっています。それが、全国・県の正答率との差としてもあらわれています。
- ・特に、大問3(言葉の特徴や使い方に関する事項)については、全国・県と比較して10%をこえる正答率の違いがみられます。また、無解答率も、大幅に増えています。
- ・漢字の知識についての設問(三三(1)ア・イ・ウ)の無解答率の高さが課題として考えられます。

＊時間制限内に一定量を処理する客観テストの方式(問題の書かれ方や答え方、分量など)に慣れていないことも要因の一つとして考えられます。

## 6. 算数 ～問題別調査結果より～

- ・正答率は、全国・県と比較する「図形」の領域が若干下回りますが、全体の傾向としては大きな違いは見られません。
- ・無解答率は、全国・県と比較して若干上回る設問もありますが、全体の傾向としては大きな違いは見られません。
- ・大問2-1(直角三角形の面積を求める式と答えを書く。)と大問4-3(30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。)の正答率が、他の設問と比べて低い様子が伺えます。